様式４　　〈推進校→一宮市社協〉

令和６年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一　宮　市　立　丹　陽　小　学　校	学校 No.	１１

１　福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）目標

社会が互いに人と人との助け合いによって成り立っていることに気づかせたり、体験活動を通して、自分が社会の一員であることを自覚させたりする。また、自分に何ができるかを考えさせることで、よりよく生きようとする気持ちを育てる。

「車いす体験」の様子

（２）計画と推進体制

・福祉実践教室【５年生：総合的な学習の時間】

・赤い羽根共同募金などの募金活動【児童会】

２　福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（１）福祉実践教室

５年生が「車いす」と「視覚障害者ガイドヘルプ」の体験を行った。「車いす体験」では車いすの扱い方や介助の仕方を学び、車いすに乗る役と 介助役の両方を体験した。「視覚障害者ガイドヘルプ体験」では白杖の扱い方や介助の仕方を学び、視覚障害者役 と介助役の二人一組で、 障害物が置かれたコースを周るという体験を行った。 どちらも相手を思いやった声掛けが大切であることを理解することができた。

「ガイドヘルプ体験」の様子

（２）募金活動への参加

児童会が中心となって、１１月に赤い羽根共同募金に取り組んだ。児童集会で児童会のメンバーが活動内容を説明したり、児童会だよりやポスターで募金活動の意義を知らせたりして活動を盛り上げた。

３　福祉教育の成果と今後の課題

今年度は、５年生で福祉実践教室を行った。子どもたちは、車いす体験を通して、車いすによる移動の大変さに気付くとともに、車いす介助の際の適切な方法を学ぶことができた。また、視覚障害の疑似体験では、移動や着席といった日常生活の中の動きでも、非常に難しくなることを知り、障害のある方の努力や工夫について深く考えることができた。子どもたちは、普段できない体験活動や講師の先生方の貴重なお話を通して、障害のある方々の切実な思いを知ることができた。そして、「社会の中で自分たちに何ができるか」ということを考えるよい機会となった。さらに、日常生活の中で積極的に行動しようとする思いを強くもつことができた。

今後もこうした体験活動を大切にしながら、福祉に対する児童の理解をさらに深めていきたい。そして、自分たちにできることを実行していく場を設け、実践力を育てていきたい。

様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立丹陽西小学校	学校Ｎｏ．	12

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）　目標

さまざまな障がいのある方の気持ちや苦労を理解するとともに、人に対する思いやりの心を育てる。

（２）　計画

５年生　：　福祉についての調べ学習（９月）
　　福祉実践教室（１０月）
全　校　：　緑の募金（５月）
　　赤い羽根募金（１１月）
　　あいさつ運動（通年）

（３）　推進体制

５年生は総合的な学習の時間に、全校活動は児童会・委員会活動において推進する。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（１）　福祉についての調べ学習

総合的な学習の時間に、副読本「ともに生きる」やインターネット、書籍を活用して、福祉についての調べ学習に取り組み、調べたことを報告文にまとめた。（９月）

（２）　福祉実践教室

車いす、手話、点字、ガイドヘルプの体験を行い、障がいのある方への理解を深める活動に取り組んだ。（１０月）

（３）　緑の募金

緑化委員会が中心となって、緑の募金に取り組み、募金活動の意義を啓発した。（５月）

（４）　赤い羽根募金

児童会・代表委員会が中心となって、赤い羽根募金に取り組み、募金活動の意義を啓発した。（１１月）

（５）　あいさつ運動

毎月第３月曜日が「あいさつデー」となっており、学校と保護者、地域が一体となって、あいさつ運動に取り組んだ。（通年）

３．福祉教育の成果と今後の課題

福祉についての調べ学習や福祉実践教室を通して、障がいのある方への理解を深めることができた。体験的に学んだことにより、さまざまな人の立場に立って物事を考えることや個性を認めることの大切さに気づくことができた。また、募金活動やあいさつ運動を通して、主体的に行動していくことのよさを学ぶことができた。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立丹陽南小学校	学校Ｎｏ．	13

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、「みんな　それぞれ　とっておきの一人」を指導の基本理念として教育活動を進めている。一人一人がかけがえのない存在であり、互いに尊重し合うことの大切さを学ぶことができるよう、様々な活動に取り組んでいる。本校では、地域の方に見守り隊、学習支援ボランティアとして多く関わっていただいている。この地域との関わりが、福祉の面で大変有効であり、子どもたちの成長に大きな役割を担っている。また、障害のある状態を体験することで、思いやりの心が育まれていくと考えた。そこで、実践にあたっては、次に掲げることを目標として活動を計画した。

目標　高齢者、障害のある人や、地域の方々との関わりを通して、思いやりの心を育むとともに、相手を尊重する態度を育てる。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

①体験

ガイドヘルプでは、タオルで目を隠した児童を補助しながら校舎内の階段や障害物が置いてある廊下を歩いた。

点字体験では、点字の歴史や点字の読み方、打ち方を学んだ後、実際に自分の名前を点字で打つという体験をした

手話体験では、挨拶や「丹陽南小学校5年生、名前」、その他簡単な手話を教えていただいた。以下、児童が書いた感想である。

～児童の感想～

ガイドヘルプ

・階段を降りる時が特に怖くて、視覚障害者の方の気持ちが分かった。
・友達がいてくれることでとても安心することができた。
・平らなところでも歩くのが不安で、少しずつしか進むことができなかった。

点字体験

・点字のしくみが分かってよかった。
・点字ブロックの上に物を置かないように気をつけなければならないと思った。

手話体験

・手の動きで会話ができることがすごいと思った。
・手話を覚えて、困っている人がいたら力になりたいと思った。

②地域の方との繋がりを深める取り組み

地域の方々には登下校を見守っていただく「見守り隊」や読み聞かせボランティア、生活面の支援をしていただく「ハートフル」などでお世話になっている。また、クラブ活動では「グラウンドゴルフ、茶道、囲碁・将棋」の指導にも携わっていただいている。児童も地域の中で多くの方に見守られていることを日々実感している。

３．福祉教育の成果と今後の課題

福祉実践教室では、全体講義や各体験を通して、講師の先生方の思いを強く感じ、真剣に話を聞いていた。実践後の感想では、多くの児童が障害をもつ人の気持ちを考えて、困っている人がいたら力になりたいという思いをもつことができた。また、地域のボランティアの方とのふれあいの中で、地域の方々に見守られていることを実感した児童は、進んで挨拶をしたり自分の周りにいる人に対して思いやりの気持ちをもって行動したりしようとしている。

今後も、様々な場面で児童が主体的に学び、思いやりの心を育むことができるような活動を考えていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立浅井南小学校	学校Ｎｏ．	14

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）目　標

・体の不自由な人の体験や募金活動を通して、障害のある人に対する理解を深める。

・一人一人が大切にされているという実感をもたせるとともに、お互いに認め合える人間関係を作り、優しく思いやりのある豊かな心を育てる。

（２）計画・推進体制

・福祉実践教室の実施（５年）　　・地域の方との交流活動（４年）

・オアシス運動（全学年）　　・赤い羽根の募金（全学年）

（３）推進体制

・３・５年生（総合的な学習の時間で実施）　・児童会・代表委員会

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（１）福祉体験教室（５年）

１０月に、車いす・手話・点字の体験活動に取り組んだ。「車いす体験」では、車いすの扱い方や介助の仕方を学ぶとともに、足の不自由な方が何に困っているのかなど、体験を通して知ることができた。「手話体験」では、簡単な手話の練習や、手話の他にも自分の気持ちを伝える方法がたくさんあることを学んだ。その中のいくつかの方法を実際に体験したが、それらは伝えるための単なるツールであり、一番大切なのは『伝えたいと思う気持ち』であることを学んだ。こうした体験を通して、障害を持っている方の苦労や、自分にできる支援について考えることができた。

（２）地域の方との交流活動（４年）

４年生は、地元の方から『菊作り』について話を聞いた。長年続けられている理由や菊花大会で入賞したときの喜びなど聞き、地域の方と交流することで地域の人々や文化を大切にしようとする気持ちを高めることができた。

（３）オアシス運動

心にオアシス（思いやり・あたたかい・親切な・素直な気持ち）を合言葉に、クラスの子だけでなく、ペア学年でペアになった子の「よいところ」をカードに書いて伝え合った。運動会やペア交流活動など、学校行事の後にもオアシスカードを書いた。各クラスの廊下には掲示板を設置し、だれでも見られるようにした。自他のよさを見つけ合い、認め合う場を位置付けることで思いやりの気持ちや自身の成長などが感じられた。

３．福祉教育の成果と今後の課題

活動を通して、体の不自由な人についての理解を深めたり、地域の文化を大切にしていこうという気持ちを高めたりすることができた。オアシス運動では、自己肯定感が高まり優しく思いやりのある豊かな心を育てることができた。しかし、児童が自ら進んで地域の活動やボランティア活動に参加するまでには至っていない。今後も福祉に関する体験活動や、地域の一員である自覚を高める体験活動、交流活動を進め、さらに優しく思いやりのある豊かな心を育んでいきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

様式４　　＜推進校→一宮市社協＞

令和６年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立浅井北小学校	学校 No.	１５

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）目標

高齢者や障害のある方との交流を通して、お互いのよさを認め合い、心豊かな生活ができるようにする。

（２）計画

・福祉実践教室を通して、障害のある方と交流し、体の不自由な人の大変さを知る。

・老人福祉施設「ウエルコートみづほ」を訪問し、高齢者の方たちと交流する。

（３）推進体制

学校運営機構に、人権・福祉教育部を組織し、全校体制で取り組む。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（１）福祉実践教室（５月）

福祉実践教室を通して、障害のある方と交流したり、車いす体験やガイドヘルプ体験をしたりすることで、体の不自由な人の大変さについて考えることができた。

（２）老人福祉施設との交流（通年）

各学年が老人福祉施設「ウエルコートみづほ」に訪問し、高齢者の方たちと交流する活動を通して、人を思いやる心、いたわる心などを捉えた。

・低学年…学校行事の思い出や、今学校でがんばっていることなど、高齢者の方たちへのメッセージを書いてプレゼントした。また、お年寄りの方々に元気でいていただけるよう思いを込めて、ダンスを披露した。

・中学年…健康を気遣うメッセージを添えたカードを作成してプレゼントした(４年生)。また、お年寄りの方々に元気でいていただけるよう思いを込めて、歌やリコーダー演奏(３年生・４年生)を披露した。児童が準備してきたゲームなどの遊びを各グループに分かれて行う形で交流も行った(４年生)。

・高学年…お年寄りの方々に元気でいていただけるよう思いを込めて、歌やリコーダー演奏を披露した。

３．福祉教育の成果と今後の課題

・福祉実践教室や老人福祉施設との交流(訪問)を通して、体の不自由な人や、お年寄りの苦労や大変さについて考えるきっかけとすることができた。また、弱い立場の人たちへの配慮が必要であることに気付き、ボランテイアへの関心を高めることができた。

・福祉活動で学んだ思いやりの心やいたわる心を、普段の生活の中で生かせるように、今後も継続して取り組んでいきたい。